

2015年10月5日

東京電力株式会社 広報室

福島第一原子力発電所におけるトラブル等に関する  
「通報基準・公表方法」の更新について

当社は、福島第一原子力発電所におけるトラブル等に関する迅速・的確な情報発信を目的に、「通報基準・公表方法」を策定し、**2013年9月**より運用を開始しております。また、廃炉作業の進捗に伴う新たな作業の発生などの状況変化を踏まえて、今年**5月**に更新しております。

このたび、これまでの運用実績等をふまえ、実態に即して「通報基準・公表方法」を更新しましたので、お知らせいたします。

当社といたしましては、今後も引き続き、福島第一原子力発電所に関わる情報の適時・適切な公表に努めるとともに、「通報基準・公表方法」に関しましては、運用実績や社会的関心の状況等をふまえ、適宜必要な見直しを実施してまいります。

なお、今回更新した「通報基準・公表方法」は、**2015年10月6日**より、運用を開始いたします。

○主な更新箇所は以下の通りです。

<廃炉作業の進捗に伴う新たな項目の追加>

- ・側溝放射線モニタ警報発生時の基準を追加
- ・サブドレン・地下水ドレン集水設備/サブドレン他浄化設備・移送設備を追加
- ・陸側遮水壁を追加

<その他>

- ・外部への放射性物質放出影響の記載の適正化
- ・滞留水移送の基準の一部変更
- ・地下水バイパスの基準の記載の適正化
- ・その他項目の記載の適性化 など

以上

添付資料

- (主な更新箇所対照表) 福島第一原子力発電所 運用時、事故・トラブル等発生時の  
通報基準・公表方法

(2015年10月5日更新)



対象設備	トラブル・事故等分類		更新前				更新後																									
			通報基準		公表方法		通報基準		公表方法																							
			要否	タイミング	一斉メール	日報&1F状況	会見説明	公表区分	タイミング	一斉メール	日報&1F状況	会見説明	公表区分	タイミング																		
けが人、傷病人	その他疾病の発生（発生時に作業との因果関係が不明のもの）	死亡者、重篤者（意識不明、心肺停止等）が発生した場合	○	●搬送依頼後30分を目安に通報 ●死亡診断が出された後	-	○	○	D	●直近の定例会見・レクにて説明 ●夜間・休日を含め、後日、作業との因果関係が認められた場合は速やかに一斉メール送信（区分A扱い）	けが人、傷病人	その他疾病の発生（発生時に作業との因果関係が不明のものを含む）	死亡者、重篤者（意識不明、心肺停止等）が発生した場合	○	●搬送依頼後30分を目安に通報 ●死亡診断が出された後 ●医師の診断結果が出た後（作業との因果関係が認められた時）	-	○	○	D	●直近の定例会見・レクにて説明 ●夜間・休日を含め、後日、作業との因果関係が認められた場合は速やかに一斉メール送信（区分A扱い）													
		死亡者・重篤者以外で救急車・ドクターヘリで病院へ搬送した場合	○	●搬送依頼後30分以内を目安に通報 ●搬送時刻（出発、到着時刻等） ●医師の診断結果が出た後	-	-	-	その他	●夜間・休日を含め、後日、作業との因果関係が認められた場合は速やかに一斉メール送信（区分C扱い）			死亡者・重篤者以外で救急車・ドクターヘリで病院へ搬送した場合	○	●搬送依頼後30分以内を目安に通報 ●搬送時刻（出発、到着時刻等） ●医師の診断結果が出た後（作業との因果関係が認められた時）	-	-	-	その他	●夜間・休日を含め、後日、作業との因果関係が認められた場合は速やかに一斉メール送信（区分C扱い）													
		業務車等で病院へ搬送し医療行為を受けた場合（翌日病院へ行った場合を含む）、または集団感染の発生などで作業に影響が出る場合	×		-	-	-	その他				業務車等で病院へ搬送し医療行為を受けた場合（翌日病院へ行った場合を含む）、または集団感染の発生などで作業に影響が出る場合	×		-	-	-	その他														
地下水バイパス	設備停止	トラブル	○	●発生確認後30分以内を目安に通報 ●分析結果確認後30分以内を目安に通報	○	○	○	C	●通報後30分以内を目安に一斉メール送信 ●直近の定例会見・レクにて説明	地下水バイパス	設備停止	トラブル	○	●発生確認後30分以内を目安に通報	○	○	○	C	●通報後30分以内を目安に一斉メール送信 ●直近の定例会見・レクにて説明													
		サンプリング結果	○	●分析結果確認後30分以内を目安に通報	○	○	○	C	●通報後30分以内を目安に一斉メール送信 ●直近の定例会見・レクにて説明			サンプリング結果	-	一時貯留タンク水のサンプリング結果が運用目標値を超えた場合	○	-	○	○	C	●通報後30分以内を目安に一斉メール送信 ●直近の定例会見・レクにて説明												
		-	○	-	-	-	その他		-			揚水井のサンプリング結果が運用目標値を超え及びみ上げを停止する場合	○	-	-	○	○	D	●直近の定例会見・レクにて説明													
地下水バイパス	設備停止	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	排水実績	作業	排水停止	○	●排水開始前	-	-	-	その他	●排水作業終了後	-	○	○	E	●定例会見・レクにて説明 ●日報、1F状況にも記載						
												サブドレン・地下水ドレン集水設備 / サブドレン他浄化設備・移送設備	設備停止	トラブル	○	●発生確認後30分以内を目安に通報	○	○	○	C	●通報後30分以内を目安に一斉メール送信 ●直近の定例会見・レクにて説明	設備停止	トラブル	ポンプなどのトラブルや建屋内滞留水水位よりサブドレン水位が低くなる恐れがある場合等により、系統の運用を停止する場合	○	●発生確認後30分以内を目安に通報	○	○	○	C	●通報後30分以内を目安に一斉メール送信 ●直近の定例会見・レクにて説明	
												サンプリング結果	-	一時貯留タンク水のサンプリングの結果、トリチウムが運用目標値を超えた場合及び、定期的な分析で基準を超え排水を停止する場合	○	-	○	○	C	●通報後30分以内を目安に一斉メール送信 ●直近の定例会見・レクにて説明	サンプリング結果	-	集水タンク水のサンプリング結果が運用目標値を超えた場合で、浄化設備への移送が不可と判断した場合	○	-	-	○	○	D	●直近の定例会見・レクにて説明		
												サンプリング結果	-	排水前の一時貯留タンク水のサンプリング結果	○	●排水開始前	-	-	-	その他	排水実績	作業	排水停止	○	●排水作業終了後	-	○	○	E	●定例会見・レクにて説明 ●日報、1F状況にも記載		
												陸側遮水壁	設備停止	トラブル	○	●発生確認後30分以内を目安に通報	○	○	○	C	●通報後30分以内を目安に一斉メール送信 ●直近の定例会見・レクにて説明	陸側遮水壁	設備停止	トラブル	プラインの大量漏えい、供給ポンプ停止などのトラブルにより、陸側遮水壁の運用を停止する場合	○	●発生確認後30分以内を目安に通報	○	○	○	C	●通報後30分以内を目安に一斉メール送信 ●直近の定例会見・レクにて説明

## 福島第一原子力発電所 運用時、事故・トラブル発生時の公表方法・タイミングについて

公表区分	考え方	公表方法・タイミング				
			一斉メール	日報 1F 状況	会見 説明	
区分A	<ul style="list-style-type: none"> <li>冷温停止状態の維持に影響を与えるもの</li> <li>周辺環境（敷地境界外側、海洋）への影響が考えられるもの</li> <li>重大な人身災害（大量の放射線被ばくなど）</li> </ul>	一斉メール 緊急記者会見での説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>通報後30分以内を目安に一斉メールを発信</li> <li>直ちに緊急の記者会見を開催</li> <li>実績は日報、福島第一の状況に記載</li> <li>緊急記者会見時には、プレス文を用意する</li> </ul>	○	○	◎ 緊急記者会見 (時間を問わない)
区分B	<ul style="list-style-type: none"> <li>冷温停止状態の維持に影響を与える可能性があるもの</li> <li>周辺環境（敷地境界外側、海洋）への影響の可能性が排除できないもの</li> <li>社会的に重大な関心のあるもの 等</li> </ul>	一斉メール 会見（定例・臨時を含む）での説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>通報後30分以内を目安に一斉メールを発信</li> <li>直近の定例会見にて説明</li> <li>&lt;会見未開催日（休日を含む）には、臨時会見の開催も検討&gt;</li> <li>実績は日報、福島第一の状況に記載</li> </ul>	○	○	● 直近の会見 (臨時会見も検討)
区分C	<ul style="list-style-type: none"> <li>発電所施設運営に軽度な影響を与えるもの</li> <li>社会的に大きな関心のあるもの 等</li> </ul>	一斉メール 定例会見での説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>通報後30分以内を目安に一斉メールを発信</li> <li>直近の定例会見にて説明</li> <li>実績は日報、福島第一の状況に記載</li> </ul>	○	○	○
区分D	<ul style="list-style-type: none"> <li>発電所施設運営に軽度な影響を与えるもの</li> <li>社会的に関心のあるもの 等</li> </ul>	定例会見での説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>直近の定例会見にて説明</li> <li>実績は日報、福島第一の状況に記載</li> </ul>	—	○	○
区分E	<ul style="list-style-type: none"> <li>発電所施設運営に係る設備のごく軽度な故障</li> <li>計画作業、操作 等</li> </ul>	定例会見での説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>直近の定例会見にて説明</li> <li>作業予定については福島第一の状況に記載</li> </ul>	—	△ (記載する場合あり)	○
区分その他		—	—	—	—	—

※上記によらない事故・トラブルが発生した場合は、社会的関心の状況などを踏まえて公表の要否を柔軟に判断します。

※複合的なトラブル・事故が発生した場合は、原則、公表区分の高い方のタイミングで公表します。

※竜巻／落雷／津波等の規模・被害が大きくなる場合は、状況に応じて臨時会見・レクを開催します。

※会見とは本店における記者会見を指し、レクとは福島県政記者会における記者レクを指します。

\*右上に記載した更新日に誤りがありましたので、お詫びして訂正いたします。 正)2015年5月12日更新 誤)2015年5月11日更新

福島第一原子力発電所 運用時、事故・トラブル等発生時の通報基準・公表方法

2013年9月17日施行  
2015年10月9日更新  
東京電力株式会社

< 意見 >  
◎直ちに緊急記者会見を開催  
●直近の定例会見・レクで説明、会見未開催日は臨時会見・レク開催も検討  
○直近の定例会見・レクで説明

自治体との通報連絡協定		対象設備	トラブル・事故等分類	通報基準					公表方法					
通報連絡要綱	運用上の留意点			要否	タイミング	一斉メール	日報 & 1F状況	会見説明	公表区分	タイミング				
(1) 原子力災害対策特別措置法第10条第1項および第15条第1項に規定する事象が発生したとき、並びに第25条第1項に規定する措置を講じたとき。		原災法第10条および第15条通報第25条報告												
(2) 核燃料（溶融燃料を含む）の冷却機能（原子炉注水を含む）が停止したとき。		原子炉注水システム	ポンプ自動停止	トラブル	既設の設備での原子炉への注水不能（原子炉注水ポンプが停止し、非常用きめ既設の設備にて、原子炉注水が来ていない場合）	○	●発生確認後30分以内を自安に通報 ●応急処置実施内容、実施時期 ●応急措置実施後（実施した場合） ●復旧時	○	○	◎	A	●通報後30分以内を自安に一斉メール送信 ●夜間・休日を問わず準備ができ次第、緊急記者会見を開催 ●緊急記者会見・レク時には、プレス文を用意		
全号機を対象として、常設設備のほか、炉注水設備および使用済燃料プール冷却系等の仮設設備を対象とする。ただし、規定どおりに予備機の起動により冷却機能を回復した場合は対象外とする。 なお、不具合対応のため、点検等が必要な場合における計画的な停止については、事前に停止計画を、事後に停止実績を連絡する。					ポンプが1台停止した場合又は停止する必要が生じた場合（原子炉注水ポンプは停止したものの、代替機器により原子炉注水は継続している場合）	○	●発生確認後30分以内を自安に通報 ●応急処置実施内容、実施時期 ●応急措置実施後（実施した場合） ●復旧時	○	○	●	B	●通報後30分以内を自安に一斉メール送信 ●直近の定例会見・レクにて説明 ●定例会見・レク未開催日には臨時会見・レクの開催も検討		
			炉注流量変動	トラブル	運転上の制限からの逸脱・原子炉への注水量が不足している場合（常用原子炉注水系で原子炉の冷却に必要な流量が確保されていない）（待機中の非常用原子炉注水系の動作可能なポンプで冷却に必要な流量が確保されていない） ・任意の2.4時間あたりの注水量増加幅が1.0m <sup>3</sup> /時を超過	○	●発生確認後30分以内を自安に通報 ●応急処置実施内容、実施時期 ●応急措置実施後（実施した場合） ●復旧時	○	○	●	B	●通報後30分以内を自安に一斉メール送信 ●直近の定例会見・レクにて説明 ●定例会見・レク未開催日には臨時会見・レクの開催も検討		
					炉注流量変更等	操作	設定流量を変更する場合	○	●事前（前日、遅くとも当日朝） ●変更後（実績）	○	○	○	E	●定例会見・レクにて説明 ●日報、1F状況にも記載
			設定流量変更を伴わない流量変更（自然増減分の調整）の場合	×			—	—	—	—	—	—	その他	
			不具合対応のための計画的なポンプ停止	○			●事前（前日、遅くとも当日朝） ●変更後（実績）	—	○	○	○	E	●定例会見・レクにて説明 ●日報、1F状況にも記載	
			使用済燃料プール冷却システム（共用プールも含む、ただし4号機は除く）	ポンプ等自動停止	トラブル	一次系および二次系の冷却が停止した場合	○	●発生確認後30分以内を自安に通報 ●応急処置実施内容、実施時期 ●応急措置実施後（実施した場合） ●復旧時	○	○	◎	A	複数号機の冷却停止および、復旧に時間を要する場合 ●通報後30分以内を自安に一斉メール送信 ●夜間・休日を問わず準備ができ次第、緊急記者会見を開催 ●緊急記者会見・レク時には、プレス文を用意	
						冷却機能に影響しない設備が停止した場合（塩分除去装置の自動停止等）	×	—	—	—	—	—	—	—
					5・6号機の燃料プール冷却浄化系がポンプ、弁等の不具合により停止した場合又は急遽停止する必要が生じた場合	○	●発生確認後30分以内を自安に通報 ●応急処置実施内容、実施時期 ●応急措置実施後（実施した場合） ●復旧時	○	○	○	○	○	C	●通報後30分以内を自安に一斉メール送信 ●直近の定例会見・レクにて説明
			漏水 スキャマージタンク 等水位変動	トラブル	使用済燃料プールからの漏水	○	●発生確認後30分以内を自安に通報 ●応急処置実施内容、実施時期 ●応急措置実施後（実施した場合） ●復旧時	○	○	◎	A	●通報後30分以内を自安に一斉メール送信 ●夜間・休日を問わず準備ができ次第、緊急記者会見を開催 ●緊急記者会見・レク時には、プレス文を用意		
					運転上の制限からの逸脱・一次系の異常な漏えい（スキャマージタンクの自然減以外の水位低下および漏えいが不可で漏えい拡大防止が困難な冷却系配管からの漏えい）	○	●逸脱宣言後30分以内を自安に通報 ●応急処置実施内容、実施時期 ●応急措置実施後（実施した場合） ●復旧時	○	○	●	B	●通報後30分以内を自安に一斉メール送信 ●直近の定例会見・レクにて説明 ●定例会見・レク未開催日には臨時会見・レクの開催も検討		
					原因不明の水位変動が生じた場合	○	●発生確認後30分以内を自安に通報 ●調査結果	○	○	○	○	C	●通報後30分以内を自安に一斉メール送信 ●直近の定例会見・レクにて説明	
		ポンプ等起動・停止	操作	不具合対応のための計画的な冷却停止	○	●事前（前日、遅くとも当日朝） ●変更後（実績）	—	○	○	E	●定例会見・レクにて説明 ●日報、1F状況にも記載			
				冷却機能に影響するポンプ停止作業、切り替え	○	●事前（前日、遅くとも当日朝） ●停止後（1日で終る場合省略） ●起動後	—	○	○	○	E	●定例会見・レクにて説明 ●日報、1F状況にも記載		
				冷却機能に影響しないポンプ停止作業、切り替え	×	—	—	—	—	—	—	その他		
		5・6号機において残留熱除去系による原子炉停止時冷却運転（原子炉側の冷却）と非常時熱負荷運転（使用済燃料プール側の冷却）を交互に切り替えて冷却する場合	ポンプ等自動停止	トラブル	5・6号機において残留熱除去系による原子炉停止時冷却運転（原子炉側の冷却）と非常時熱負荷運転（使用済燃料プール側の冷却）を交互に切り替えて冷却する場合	○	●事前（前日、遅くとも当日朝） ●運用復旧時	—	—	○	E	●定例会見・レクにて説明		



福島第一原子力発電所 運用時、事故・トラブル等発生時の通報基準・公表方法

2013年9月17日施行  
2015年10月5日更新  
東京電力株式会社

自治体との通報連絡協定		対象設備	トラブル・事故等分類	通報基準				公表方法					
通報連絡要綱	運用上の留意点			要否	タイミング	一斉メール	日報 & 1F 状況	会見説明	公表区分	タイミング			
<p>(4) モニタリングポストにおいて、放射線量の有意な上昇を検出したとき。</p>	<p>福島第一原子力発電所においては、保安規定第143条に定める再臨界の判断基準（バックグラウンドの平均値から2マイクロシーベルト/時の増加）を超える上昇が検出されたときとする。</p>	<p>外部への放射性物質放出影響を確認</p>	<p>放射線物質放出に影響を確認</p>	<p>トラブル</p> <p>モニタリングポストまたは可搬型モニタリングポストの有意な上昇があった場合（バックグラウンド平均・2マイクロシーベルト/時を目安とする）</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●確認後、30分以内に必ず判明している範囲で第1報を発信、情報が入った段階で続報を発信</li> <li>●応急処置実施内容、実施時期</li> <li>●応急措置実施後（実施した場合）</li> <li>●復旧時</li> </ul>	○	○	◎	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>●通報後30分以内を目安に一斉メール送信</li> <li>●夜間・休日を問わず準備ができ次第、緊急記者会見を開催</li> <li>●緊急記者会見・レク時には、プレス文を用意</li> </ul>		
				<p>エリアモニタの有意な上昇があった場合（過去の変動範囲から逸脱した場合）</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●発生確認後30分以内を目安に通報</li> <li>●応急処置実施内容、実施時期</li> <li>●応急措置実施後（実施した場合）</li> <li>●復旧時</li> </ul>	○	○	○	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>●通報後30分以内を目安に一斉メール送信</li> <li>●直近の定例会見・レクにて説明</li> </ul>		
				<p>モニタリングポストにおいて20nGy/hを超える変動があり、ダストモニタの指示等を確認した結果異常な放出が認められた場合</p>	○	●発生確認後30分以内を目安に通報	○	○	○	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>●通報後30分以内を目安に一斉メール送信</li> <li>●直近の定例会見・レクにて説明</li> </ul>		
				<p>敷地境界付近のダストモニタで警報が発生した場合</p>	○	●発生確認後30分以内を目安に通報	○	○	○	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>●通報後30分以内を目安に一斉メール送信</li> <li>●直近の定例会見・レクにて説明</li> <li>●1号機建屋カバ作業日報に記載</li> </ul>		
				<p>構内ダストモニタ（原子炉建屋近傍含む）で高警報が発生した場合</p>	○	●発生確認後30分以内を目安に通報	○	○	○	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>●通報後30分以内を目安に一斉メール送信</li> <li>●直近の定例会見・レクにて説明</li> <li>●1号機建屋カバ作業日報に記載</li> </ul>		
				<p>警報が発生したが、30分以内に誤警報の確認が出来た場合</p>	×		-	-	-	その他			
				<p>原子炉建屋カバ解体・がれき撤去作業時</p>	<p>トラブル</p> <p>構内ダストモニタ（原子炉建屋近傍含む）で高警報が発生した場合</p>	○	●発生確認後30分以内を目安に通報	-	-	-	その他	●1号機建屋カバ作業日報に記載	
					<p>オヘフロ上のダストモニタで高警報が発生した場合</p>	○	●発生確認後30分以内を目安に通報	-	-	-	その他	●1号機建屋カバ作業日報に記載	
					<p>オヘフロ上のダストモニタで作業時の管理値を超え、作業中止及び飛散防止剤散布という応急処置を行った場合</p>	○	●発生確認後30分以内を目安に通報	-	-	-	その他	●1号機建屋カバ作業日報に記載	
					<p>警報が発生したが、30分以内に誤警報の確認が出来た場合</p>	×		-	-	-	その他		
					<p>タンク解体作業時</p>	<p>トラブル</p> <p>解体・切断作業時におけるダスト測定で管理値を超え、作業中止及び仮設置根の設置という応急処置を行った場合</p>	○	●発生確認後30分以内を目安に通報	-	-	-	その他	
					<p>各種サンプリング（海水、地下水、排水路他）</p>	<p>各種サンプリング値において、以下2つの事象が両方発生した場合 ①過去の変動範囲、至近のサンプリング値等と比較して、有意な変動がある場合 ②環境への影響があると判断出来る場合（可能性含む） 例：周辺観測孔等で前回の値と比較して有意な変動がある場合 等</p>	○	●分析結果確定後30分以内を目安に通報	○	○	●	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>●通報後30分以内を目安に一斉メール送信</li> <li>●直近の定例会見・レクにて説明</li> <li>●定例会見・レク未開催日には臨時会見・レクの開催も検討</li> </ul>
					<p>各種サンプリング値において、以下の2つの事象が両方発生した場合 ①過去の変動範囲、至近のサンプリング値等と比較して、有意な変動がある場合 ②環境への影響がないと判断出来る場合 例：周辺観測孔等で前回の値と比較して有意な変動が無い場合、告示濃度限度以下の場合 等</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●分析結果確定後30分以内を目安に通報</li> <li>●分析結果の確定が夜間の場合は翌朝に通報</li> </ul>	-	○	○	D	●直近の定例会見・レクにて説明	
	<p>各種サンプリング値の測定結果（有意な変動、[過去の値を大きく上回る場合]等がなく、環境への汚染の影響がない場合）（地下水サンプリング含む）</p>	○	-	-	-	-	その他	●休祭日を含む午前10時および午後5時30分を目途にまとめてホームページ掲載					



福島第一原子力発電所 運用時、事故・トラブル等発生時の通報基準・公表方法

2013年9月17日施行  
2015年10月9日更新  
東京電力株式会社

自治体との通報連絡協定		対象設備	トラブル・事故等分類		通報基準				公表方法				
通報連絡要綱	運用上の留意点				要否	タイミング	一斉メール	日報&1F状況	会見説明	公表区分	タイミング		
(5) 放射性物質（放射性廃棄物を含む）の輸送中に事故があったとき。	放射性物質とは、核燃料物質、核燃料物質および原子炉の規制に関する法律第2条第2項の核燃料物質および放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律第2条第2項の放射性同位元素をいい、放射性廃棄物を含む。	燃料・廃棄物関係	放射性物質等の輸送中の事故	トラブル	核燃料物質若しくは核燃料物質に汚染されたもの、または放射性同位元素を輸送中の事故（炉規法第2条第2項の核燃料物質および炉規法第2条第2項の放射性同位元素をいい、放射性廃棄物を含む）	○	●発生確認後30分以内を自安に通報 ●応急措置実施後（実施した場合）	○	○	◎	A	●通報後30分以内を自安に一斉メール送信 ●夜間・休日を問わず準備ができ次第、緊急記者会見を開催 ●緊急記者会見時には、プレス文を用意	
			燃料の移動・輸送	作業	燃料の移動・輸送（発電所構内を含む）	作業員・車両・物品が、実施計画で定める基準〔13,000cpm〕を超えて構外に出た場合	○	●発生確認後30分以内を自安に通報 ●応急措置実施後（実施した場合）	○	○	○	C	●通報後30分以内を自安に一斉メール送信 ●直近の定例会見・レクにて説明
(6) 放射性物質（放射性廃棄物を含む）の盗取又は所在不明が生じたとき。		燃料・廃棄物関係	放射性同位元素の盗取又は所在不明	トラブル	放射性同位元素の盗取または所在不明の場合（伊規法第2条第2項の核燃料物質および炉規法第2条第2項の放射性同位元素をいい、放射性廃棄物を含む）	○	●発生確認後30分以内を自安に通報	○	○	◎	A	●通報後30分以内を自安に一斉メール送信 ●夜間・休日を問わず準備ができ次第、緊急記者会見を開催 ●緊急記者会見・レク時には、プレス文を用意	
(7) 原子炉施設に故障があったとき。	冷温停止の維持に支障を及ぼすおそれのある原子炉施設の故障があったとき。 なお、福島第一原子力発電所1～3号機については、「冷温停止」を「冷温停止状態」と読み替える。	電源関係	外部電源停止	トラブル	全ての外部電源が停止した場合	○	●発生確認後30分以内を自安に通報 ●応急措置実施内容、実施時期 ●応急措置実施後（実施した場合） ●復旧時	○	○	◎	A	●通報後30分以内を自安に一斉メール送信 ●夜間・休日を問わず準備ができ次第、緊急記者会見を開催 ●緊急記者会見・レク時には、プレス文を用意	
					運転上の制限からの逸脱 ・外部電源が1回線のみの場合（送電線事故等による瞬停時および計画的な電源切替等による停止を除く）	○	○	○	●	B	●通報後30分以内を自安に一斉メール送信 ●直近の定例会見・レクにて説明 ●定例会見・レク未開催日には臨時会見・レクの開催も検討		
					所内電源の停止により主要設備（原子炉注水、使用済燃料プール冷却、窒素ガス封入、水処理、モニタリングポスト、免震重要機の維持）の動作状況に影響を及ぼす場合で復旧に時間を要する（1日以上）と見込まれる場合	○	○	○	◎	A	●通報後30分以内を自安に一斉メール送信 ●夜間・休日を問わず準備ができ次第、緊急記者会見を開催 ●緊急記者会見・レク時には、プレス文を用意		
			所内電源の停止により主要設備（原子炉注水、使用済燃料プール冷却、窒素ガス封入、水処理、モニタリングポスト、免震重要機の維持）の動作状況に影響を及ぼす場合で速やかに復旧できる場合	トラブル	所内電源の停止により主要設備（原子炉注水、使用済燃料プール冷却、窒素ガス封入、水処理、モニタリングポスト、免震重要機の維持）の動作状況に影響を及ぼす場合で速やかに復旧できる場合	○	●発生確認後30分以内を自安に通報 ●設備復旧後	○	○	●	B	●通報後30分以内を自安に一斉メール送信 ●直近の定例会見・レクにて説明 ●定例会見・レク未開催日には臨時会見・レクの開催も検討	
					所内電源の停止により主要設備の動作状況に影響を及ぼさない場合	○	●発生確認後30分以内を自安に通報	○	○	○	C	●通報後30分以内を自安に一斉メール送信 ●直近の定例会見・レクにて説明	
					所内電源の停止作業により主要設備の機能停止（全停）が必要な場合	○	●事前（前日、遅くとも当日朝） ●停止後（1日で終了の場合省略） ●起動後	○	○	○	E	●定例会見・レクにて説明 ●日報、1F状況にも記載	
			非常用ディーゼル発電機	トラブル	定期試験等で不具合が確認され、待機除外等になる場合	○	●判断後30分以内を自安に通報 ●応急措置実施内容、実施時期 ●応急措置実施後（実施した場合） ●設備復旧後	○	○	○	○	C	●通報後30分以内を自安に一斉メール送信 ●直近の定例会見・レクにて説明
					運転上の制限からの逸脱 ・サンプリングの結果、再臨界および再臨界の可能性ありと判断された場合	○	●逸脱宣言後30分以内を自安に通報 ●応急措置実施内容、実施時期 ●応急措置実施後（実施した場合） ●復旧時	○	○	◎	A	●通報後30分以内を自安に一斉メール送信 ●夜間・休日を問わず準備ができ次第、緊急記者会見を開催 ●緊急記者会見・レク時には、プレス文を用意	
					運転上の制限からの逸脱 ・A・B両系とも停止の場合（ダストサンプリングを除く）	○	●逸脱宣言後30分以内を自安に通報 ●応急措置実施内容、実施時期 ●起動解除時 ※計画的な作業（「青旗」）適用開始後（1日で終了する場合には省略）	○	○	●	B	●通報後30分以内を自安に一斉メール送信 ●直近の定例会見・レクにて説明 ●定例会見・レク未開催日には臨時会見・レクの開催も検討	
					1系統が停止するがもう1系統で機能が維持出来ている場合	○	●発生確認後30分以内を自安に通報 ●応急措置実施内容、実施時期 ●応急措置実施後（実施した場合） ●復旧時	○	○	○	E	●定例会見・レクにて説明 ●日報、1F状況にも記載	
遠隔監視不能	トラブル	フロントデータ（PCシステム上）およびwebカメラのいずれでも監視不能の場合	○	●判断後30分以内を自安に通報 ●応急措置実施内容、実施時期 ●応急措置実施後（実施した場合） ●設備復旧後	○	○	○	○	D	●直近の定例会見・レクにて説明			
		フロントデータ（PCシステム上）で監視不可でwebカメラでは監視可能な場合	×	○	○	○	○	その他	●定例会見・レクにて説明				
操作関係	操作	作業に伴いA・B両系とも停止し、計画的に運転上の制限から逸脱する場合（ダストサンプリングを除く）	○	●事前（前日、遅くとも当日朝） ●計画的な作業（「青旗」）適用開始後（1日で終了する場合には省略） ●起動解除時	○	○	○	○	E	●定例会見・レクにて説明 ●日報、1F状況にも記載			
		作業に伴い1系統が停止するが、もう1系統で機能が維持できている場合	×	○	○	○	○	その他	●定例会見・レクにて説明				

福島第一原子力発電所 運用時、事故・トラブル等発生時の通報基準・公表方法

2013年9月17日施行  
2015年10月9日更新  
東京電力株式会社

自治体との通報連絡協定		対象設備	トラブル・事故等分類		通報基準				公表方法							
通報連絡要綱	運用上の留意点				要否	タイミング	一斉メール	日報 & 1F状況	会見説明	公表区分	タイミング					
(7) 原子炉施設に故障があったとき。	冷温停止の維持に支障を及ぼすおそれのある原子炉施設の故障があったとき。 なお、福島第一原子力発電所1～3号機については、「冷温停止」を「冷温停止状態」と読み替える。	原子炉圧力容器／原子炉格納容器温度、温度計	異常な温度上昇	トラブル	運転上の制限からの逸脱 ・原子炉圧力容器内部温度で80℃を超過 ・原子炉格納容器内温度が全体的に著しい温度上昇傾向がある場合	○	●逸脱宣言後30分以内を自安に通報 ●確認された事実を適宜(1回/時間)通報 ●応急処置方法、実施時期を事前に通報 ●応急措置実施後(実施した場合) ●復旧宣言(あるいは取下げ)後 ●原因、対策(必要に応じて)	○	○	●	B	●通報後30分以内を自安に一斉メール送信 ●直近の定例会見・レクにて説明 ●定例会見・レク未開催日には臨時会見・レクの開催も検討				
					原子炉圧力容器および原子炉格納容器内温度の上昇の兆候	○	●判断後30分以内を自安に通報 ●応急処置実施内容、実施時期 ●応急措置実施後(実施した場合) ●設備復旧後 ●確認された事実を適宜(1回/時間)通報 ●原因、対策(必要に応じて)	○	○	○	D	●直近の定例会見・レクにて説明				
			温度計異常	作業	監視使用可の保安規定対象温度計について、日常監視または毎月実施する信頼性評価で異常が見られ点検(抵抗測定等)を実施した場合	○	●点検決定後速やかに ●点検後の扱い(監視→参考または故障)決定後	○	○	○	E	●点検結果で不良となった場合 ●日報、1F状況にも記載				
					毎月実施する定例点検の結果、温度計の扱い(監視、参考、故障)が変更になった場合	×	-	-	-	-	その他	●月例プレス(「福島第一原子力発電所1～3号機における原子炉内温度計および原子炉格納容器内温度計の信頼性評価について」)にて説明				
		水処理設備(SAFRY/KURION/AREVA)および多核種除去設備(ALPS)／モバイル型ストロンチウム除去装置／RO濃縮水処理設備/淡水化装置	設備停止	トラブル	運転上の制限からの逸脱 ・水処理設備において全ての設備が動作不可	○	●逸脱宣言後30分以内を自安に通報 ●確認された事実を適宜(1回/時間)通報 ●応急処置方法、実施時期を事前に通報 ●応急措置実施後(実施した場合) ●復旧宣言(あるいは取下げ)後 ●原因、対策(必要に応じて)	○	○	●	B	●通報後30分以内を自安に一斉メール送信 ●直近の定例会見・レクにて説明 ●定例会見・レク未開催日には臨時会見・レクの開催も検討				
					水処理各設備または多核種除去設備(ALPS)が計画外に停止した場合(誤操作含む)	○	●発生確認後30分以内を自安に通報 ●応急処置実施内容、実施時期 ●応急措置実施後(実施した場合) ●復旧時	○	○	○	C	●通報後30分以内を自安に一斉メール送信 ●直近の定例会見・レクにて説明				
					系統の運転停止が必要となる機種の故障(試運転中のトラブルおよび本体機器以外の故障を含む)	○	●発生確認後30分以内を自安に通報 ●異物の状況(適宜) ●回収時	○	○	○	D	●直近の定例会見・レクにて説明				
					不具合対応のため水処理設備または多核種除去設備(ALPS)の計画的な全停止	○	●事前(前日、遅くとも当日朝) ●全停後(1日で終る場合省略) ●起動後	○	○	○	E	●定例会見・レクにて説明 ●日報、1F状況にも記載				
					(8) 非常用炉心冷却装置が作動したとき。 (起動信号が発信したときを含む。)また、この場合、配管破断の有無を確認したとき。	5・6号機非常用炉心冷却系	5・6号機非常用炉心冷却系の動作	トラブル	非常用炉心冷却系作動時(起動信号発信を含む)、およびこの場合に配管破断の有無を確認したとき(事故・故障等によるもの。試験起動の場合は除く)	○	●発生確認後30分以内を自安に通報 ●応急措置実施後(実施した場合)	○	○	◎	A	●通報後30分以内を自安に一斉メール送信 ●夜間・休日を問わず準備ができ次第、緊急記者会見を開催 ●緊急記者会見時には、プレス文を用意 ※起動信号のみの場合は公表区分C
									5・6号機の原子炉、使用済燃料プール、圧力抑制室内において、異物(工具類、機材類、消耗品類およびルースパーツ)をさす[混入しても機器等へ影響を及ぼさないものは除く]を発見した場合、また、物品を落下した場合で速やかに回収できない場合	○	●発生確認後30分以内を自安に通報 ●異物の状況(適宜) ●回収時	○	○	○	E	●定例会見・レクにて説明 ●日報、1F状況にも記載
(9) 原子炉内で異物を発見したとき。	① 「原子炉内」とは、原子炉冷却材圧力パンダリ内をいう。(福島第一原子力発電所1～4号機を除く) ② 「異物」とは、工具類、機材類、消耗品類およびルースパーツ(脱落した部品等)をさすものとする。ただし、混入しても機器等へ影響を及ぼさないものは除く。 なお、異物様物品を発見し、24時間以内に異物と判断できない場合は連絡する。	異物	5・6号機原子炉および使用済燃料プール内の異物発見	トラブル	5・6号機の原子炉、使用済燃料プール、圧力抑制室内において、異物(工具類、機材類、消耗品類およびルースパーツ)をさす[混入しても機器等へ影響を及ぼさないものは除く]を発見した場合、また、物品を落下した場合で速やかに回収できない場合	○	●発生確認後30分以内を自安に通報 ●異物の状況(適宜) ●回収時	○	○	E	●定例会見・レクにて説明 ●日報、1F状況にも記載					

福島第一原子力発電所 運用時、事故・トラブル等発生時の通報基準・公表方法

2013年9月17日施行  
2015年10月9日更新  
東京電力株式会社

自治体との通報連絡協定		対象設備	トラブル・事故等分類		通報基準				公表方法										
通報連絡要綱	運用上の留意点				要否	タイミング	一斉メール	日報&1F状況	会見説明	公表区分	タイミング								
(10) 放射性廃棄物の排出濃度が法令に定める濃度限度等を越えたとき。	① 周辺監視区域の外の空気中又は水中の放射性物質の濃度が、規則第15条第4号および第7号に規定する濃度限度を超えたとき。 ② 気体状又は液体状の放射性廃棄物を、それぞれ排気又は排水設備によって排出した場合において原子炉施設保安規定に定める放出管理目標値を超えたとき。 ③ 原子炉施設の故障その他の不測の事態が生じたことにより放射性廃棄物の排気施設又は排水施設の排出状況に異状が認められたとき。(福島第一原子力発電所1~4号機および集中環境処理施設については、至近の放出量と比べて「異状」な状態となった場合とする。)	水漏れ(漏気をきむ)	水漏れの発見(漏気をきむ)	トラブル	汚染水の場合(多核種除去設備(ALPS)含む)、または漏れた水がすぐに「ろ過水」「飲料水」「海水」と判断できない場合	○	●発生確認後30分以内を自発に通報(判明している範囲で第1報を入れ、情報が入ったタイミングで第2報以降を発信。漏えい停止、応急処置の方法、応急処置の実施時期の確定等状況が変わった場合も適宜発信)。●原因調査等で発生が想定され、場内で収まり外部への影響が無い場合は、まとめて発信も可。 ・発見時刻 ・漏えい箇所 ・煙(含む煙塵、土塵)の有無 ・漏えい量、漏えい状態(停止/継続) ・水の出所、放射能濃度 ・海洋放出のおそれの有無 ・系統への影響 ・応急処置実施内容、実施時期 上記の情報やデータにより公表区分は変化する	○	○	○	C	●通報後30分以内を自発に一斉メール送信 ●直近の定例会見・レクにて説明							
						○	○	◎	A	汚染水の場外への漏えいおよび漏えいの可能性がある場合・漏気によるモニタリングポストへの影響がある場合 ●通報後30分以内を自発に一斉メール送信 ●夜間・休日を問わず準備ができ次第、緊急記者会見を開催 ●緊急記者会見・レク時には、プレス文を用意									
						○	○	●	B	分析の結果、高濃度の汚染水(10 <sup>2</sup> ベクレル/cm <sup>3</sup> 以上)の場合 ●通報後30分以内を自発に一斉メール送信 ●直近の定例会見にて説明 ●定例会見・レク未開催日には臨時会見・レクの開催も検討									
						○	○	○	C	分析の結果、低濃度の汚染水(10 <sup>2</sup> ベクレル/cm <sup>3</sup> 未満)の場合 ●通報後30分以内を自発に一斉メール送信 ●直近の定例会見にて説明									
						×	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
						○	○	○	C	●通報後30分以内を自発に一斉メール送信 ●直近の定例会見・レクにて説明									
						○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
						○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
						(11) 核燃料物質又は核燃料物質によって汚染されたものが管理区域外で漏えいしたとき。	① 気体状の核燃料物質又は核燃料物質によって汚染された物が管理区域外で漏えいしたとき。 ② 液体状の核燃料物質又は核燃料物質によって汚染された物が管理区域外で漏えいしたとき。 ③ 福島第一原子力発電所については、「管理区域」を「管理対象区域」と読み替える。	水たまりの発見	トラブル	「雨水」「地下水」「結露水」と判断できる場合(分析には回すまでもない場合) 汚染水の場合(雨水、地下水、結露水でない場合)、または「雨水」「地下水」「結露水」とすぐに判断できない場合	×	—	—	—	—	—	—	—	—
											○	●発生確認後30分以内を自発に通報(判明している範囲で第1報を入れ、情報が入ったタイミングで第2報以降を発信。漏えい停止、応急処置の方法、応急処置の実施時期の確定等状況が変わった場合も適宜発信) ・発見時刻 ・漏えい箇所 ・煙(含む煙塵、土塵)の有無 ・漏えい量、漏えい状態(停止/継続) ・水の出所、放射能濃度 ・海洋放出のおそれの有無 ・系統への影響 ・応急処置実施内容、実施時期 上記の情報やデータにより公表区分は変化する	○	○	◎	A	汚染水の場外への漏えいおよび漏えいの可能性がある場合 ●通報後30分以内を自発に一斉メール送信 ●夜間・休日を問わず準備ができ次第、緊急記者会見を開催 ●緊急記者会見・レク時には、プレス文を用意		
○	○	●	B	分析の結果、高濃度の汚染水(10 <sup>2</sup> ベクレル/cm <sup>3</sup> 以上)の場合 ●通報後30分以内を自発に一斉メール送信 ●直近の定例会見にて説明 ●定例会見・レク未開催日には臨時会見・レクの開催も検討															
○	○	○	C	分析の結果、低濃度の汚染水(10 <sup>2</sup> ベクレル/cm <sup>3</sup> 未満)の場合 ●通報後30分以内を自発に一斉メール送信 ●直近の定例会見にて説明															
(12) 核燃料物質又は核燃料物質によって汚染されたものが管理区域内で漏えいした場合において人の立入制限等の措置を講じたとき。	核燃料物質又は核燃料物質によって汚染された物が管理区域内で漏えいした場合において、漏えいに係る場所について人の立入制限、かきの管理等の措置を新たに講じたとき又は漏えいした物が管理区域外に広がったとき。	漏えい検知器動作	トラブル	配管から漏えいにより漏えい検知器が動作した場合	○						●検知器動作確認後30分以内を自発に通報(判明している範囲で第1報を入れ、情報が入ったタイミングで第2報以降を発信。漏えい停止、応急処置の方法、応急処置の実施時期の確定等状況が変わった場合も適宜発信) ●復旧時	○	○	○	C	●通報後30分以内を自発に一斉メール送信 ●直近の定例会見にて説明 ●分析の結果、高レベル汚染水の場合は公表区分B ●すく(30分目途)誤警報であると確認された場合は、「その他」			
					×						—	—	—	—	—	—	—	—	—
					即清除放射線モニタ警報発生等						トラブル	C排水路の下流に設置している構内側清排水放射線モニタの指示値から核燃料物質等の漏えいの恐れがある場合	○	●警報発報確認後30分以内を自発に通報(判明している範囲で第1報を入れ、情報が入ったタイミングで第2報以降を発信。漏えい停止、応急処置の方法、応急処置の実施時期の確定等状況が変わった場合も適宜発信) ●復旧時	○	○	○	C	●通報後30分以内を自発に一斉メール送信 ●直近の定例会見にて説明 ●分析の結果、高レベル汚染水の場合は公表区分B ●すく(30分目途)誤警報であると確認された場合は、「その他」

福島第一原子力発電所 運用時、事故・トラブル等発生時の通報基準・公表方法

2013年9月17日施行  
2015年10月9日更新  
東京電力株式会社

自治体との通報連絡協定		対象設備	トラブル・事故等分類		通報基準				公表方法				
通報連絡要綱	運用上の留意点				要否	タイミング	一斉メール	日報 & 1F状況	会見説明	公表区分	タイミング		
(12)核燃料物質又は核燃料物質によって汚染されたものが管理区域内で漏えいした場合において人の立入制限等の措置を講じたとき。	核燃料物質又は核燃料物質によって汚染された物が管理区域内で漏えいした場合において、漏えいに係る場所について人の立入制限、かぎの管理等の措置を新たに講じたとき又は漏えいした物が管理区域外に広がったとき。	汚染水貯蔵タンク	漏えい、溢水の発見	トラブル	ハドロール等においてタンク、連絡配管からの漏えい、罐内の水の溢水を確認した場合	○	●発生確認後30分以内を自安に通報（判明している範囲で第1報を入れ、情報が入ったタイミングで第2報以降を発信。漏えい停止、応急処置の方法、応急処置の実施時期の確定等状況が変わった場合も適宜発信） ●発見時刻 ●漏えい箇所 ●罐（含建屋、土嚢）の有無 ●漏えい量、漏えい状態（停止／継続） ●水の出所、放射能濃度 ●海洋放出のおよびの有無 ●系統への影響 ●応急処置実施内容、実施時期 上記の情報やデータにより公表区分は変化する	○	○	○	C	●通報後30分以内を自安に一斉メール送信 ●直近の定例会見・レクにて説明	
						○	○	◎	A	汚染水の構外への漏えいおよび漏えいの可能性が移る場合 ●通報後30分以内を自安に一斉メール送信 ●夜間・休日を問わず準備ができ次第、緊急会見を開催 ●緊急記者会見・レク時には、プレス文を用意			
						○	○	●	B	分析の結果、高濃度の汚染水（10 <sup>2</sup> ベクレル/cm <sup>3</sup> 以上）の場合 ●通報後30分以内を自安に一斉メール送信 ●直近の定例会見にて説明 ●定例会見・レク未開催日には臨時会見・レクの開催も検討			
						○	○	○	C	分析の結果、低濃度の汚染水（10 <sup>2</sup> ベクレル/cm <sup>3</sup> 未満）の場合 ●通報後30分以内を自安に一斉メール送信 ●直近の定例会見にて説明			
			水位低下	トラブル	タンクハドロール等においてタンクの水位低下と判断された場合	○	●確認後30分以内を自安に通報 ●調査結果	○	○	○	C	●通報後30分以内を自安に一斉メール送信 ●直近の定例会見・レクにて説明	
			高線量箇所検出	トラブル	タンクハドロールにおいて高線量箇所を検出した場合	○	●ハドロール結果受領後30分以内を自安に通報	-	○	○	E	●定例会見にて説明 ●日報、1F状況にも記載	
			タンクエリア内からの水の移送、排水	操作	タンクエリア内からの水の移送、排水（定められた運用以外で行った場合）	○	●開始時（一連の移送開始） ●計画変更時（実施した場合） ●終了時（一連の移送終了）	-	○	○	D	●直近の定例会見・レクにて説明	
					タンクエリア内からの水の移送、排水（定められた運用による場合）	×	-	-	-	-	その他		
			対象設備外部への放射性物質放出	モニタリングポストの欠測	トラブル	モニタリングポストの欠測（隣接2層以上かつ2h以上継続）	○	●発生確認後30分以内を自安に通報 ●復旧時	○	○	○	C	●通報後30分以内を自安に一斉メール送信 ●直近の定例会見・レクにて説明
						モニタリングポストの欠測（上記以外）	○	●発生確認後30分以内を自安に通報 ●復旧時	-	○	○	D	●直近の定例会見・レクにて説明
		排気筒モニタの故障による欠測（5・6号機）			○	●発生確認後30分以内を自安に通報 ●応急処置実施内容、実施時期 ●応急措置実施後（実施した場合） ●復旧時	-	○	○	D	●直近の定例会見・レクにて説明		
					滞留水移送の計画外停止	トラブル	漏えい以外で計画外に停止した場合	○	●発生確認後30分以内を自安に通報 ●応急措置実施後（実施した場合）	○	○	○	C
		滞留水の移送	作業	高濃度滞留水の移送（1～4号機タービン建屋地下、サイトハンカ、共用フルダクト等からの移送）	○	●毎日定期的にお知らせしているプラント状況等と併せて通報	-	-	-	その他			
					低濃度滞留水（5・6号機等）の移送（仮設タンク等、陸上での移送）	×	-	-	-	その他	●滞留水水位、移送、処理状況に記載し、ホームページ掲載		
					高濃度滞留水の非定例移送（孤立エリア、立坑等、からの移送）	○	●開始時（一連の移送開始） ●計画変更時（実施した場合） ●終了時（一連の移送終了）	-	○	○	E	●定例会見・レクにて説明 ●日報、1F状況にも記載	
					低濃度滞留水（5・6号機等）の移送（メガポート等、海への流出の可能性がある移送）	○	●開始時（一連の移送開始） ●計画変更時（実施した場合） ●終了時（一連の移送終了）	-	○	○	E	●定例会見・レクにて説明 ●日報、1F状況にも記載	
		キャスク仮保管施設の異常	トラブル	キャスク仮保管施設の表面温度、密封圧力指示に異常が認められた場合	○	●発生確認後30分以内を自安に通報 ●応急処置実施内容、実施時期 ●復旧時	○	○	●	B	●通報後30分以内を自安に一斉メール送信 ●直近の定例会見・レクにて説明 ●定例会見・レク未開催日には臨時会見・レクの開催も検討		
		放射性物質放出関連作業	作業	シルトフェンスを開閉した場合	○	●事前（前日、遅くとも当日朝） ●開放後（1日で終る場合省略） ●閉止後	-	○	○	E	●定例会見・レクにて説明 ●日報、1F状況にも記載		
				放射性物質放出防止に係る作業の完了（ビット閉塞工事、カバー設置工事等）	○	●完了後速やかに	-	○	○	E	●定例会見・レクにて説明 ●日報、1F状況にも記載		

福島第一原子力発電所 運用時、事故・トラブル等発生時の通報基準・公表方法

2013年9月17日施行  
2015年10月9日更新  
東京電力株式会社

自治体との連絡協定		対象設備	トラブル・事故等分類		通報基準				公表方法					
通報連絡要綱	運用上の留意点				要否	タイミング	一斉メール	日報 & 1F状況	会見説明	公表区分	タイミング			
<p>(13) 放射線業務従事者の被ばくが法令に定める線量限度を超えたとき、ただし、線量限度以下の被ばくであっても、被ばく者に対して特別の措置を必要とするときも同様とする。</p>	<p>① 放射線業務従事者の受ける実効線量（5年間につき100ミリシーベルト、かつ、1年間につき50ミリシーベルト）、眼の水晶体の等価線量（1年間につき150ミリシーベルト）、皮膚の等価線量（1年間につき500ミリシーベルト）、女性の実効線量等が法令で定める線量限度を超えたとき、又はそのおそれがあるとき。 ② 線量限度以下の被ばくであっても放射線管理計画書に記載された値を著しく超えたとき。 ③ 被ばく者に対する特別の措置とは、医師等の指示により勤務場所等を変更したとき、医師が放射線障害のおそれがあると判断し、診察・処置等を行ったとき、又は医師の診察・除洗等の処置を必要とするときをいう。 ただし、発電所内で水洗等の簡易な除洗で除去されたものは除く。</p>	被ばく関係	線量超過	トラブル	法令に定める線量限度を超えた場合、そのおそれのある場合（1日もしくは作業単位での大量の被ばくの場合）	○	●判明後30分以内を自安に通報	○	○	◎	A	●通報後30分以内を自安に一斉メール送信 ●夜間・休日を含む準備ができ次第、緊急記者会見を開催 ●緊急記者会見・レク時には、プレス文を用意 ●察見で超過する場合は公表区分D		
					放射線管理計画書に記載された値を超えた場合（5ミリシーベルトを超える作業が対象）、または非放射線業務従事者が0.5ミリシーベルトを超えた場合	○	●判明後30分以内を自安に通報	○	○	●		B	●通報後30分以内を自安に一斉メール送信 ●直近の定例会見・レクにて説明 ●定例会見・レク未開催日には臨時会見・レクの開催も検討	
					計画線量を大きく超えたことを確認した場合	○	●判明後30分以内を自安に通報	○	○	○		E	●定例会見・レクにて説明	
					個人線量計の装着忘れ（リングパッチ等も含む）	トラブル	作業等において個人線量計を装着していなかった場合	○	●判明後30分以内を自安に通報	○	○	○	E	●定例会見・レクにて説明 ●日報、1F状況にも記載
					高濃度物質、高濃度汚染水を発見	トラブル	高濃度物質、高濃度汚染水を発見し、立ち入り制限を実施した場合 （雲田気線量率の目安は1～4号機物的防護区域内で100ミリシーベルト/時、外で15ミリシーベルト/時）	○	●制限措置実施判断後30分以内を自安に通報	○	○	○	D	●直近の定例会見・レクにて説明
					内部取込の可能性	トラブル	内部取込の可能性（首より上に汚染が確認され、鼻スマヤで汚染が確認された場合）があり、ホールボディカウンタを受検する場合	○	●ホールボディカウンタ受検指示後30分以内を自安に通報 ●ホールボディカウンタ結果判明時	○	○	○	E	●定例会見にて説明 ●日報、1F状況にも記載 ●内部取込みが確定した場合は公表区分C
					高濃度汚染水の被水	トラブル	アブラックを着用せずに高濃度汚染水を被水した場合	○	●判明後30分以内を自安に通報 ●汚染検査、除染結果	○	○	●	B	●通報後30分以内を自安に一斉メール送信 ●定例会見・レク未開催日には臨時会見・レクの開催も検討
					全面マスク着用指示	トラブル	一時的に全面マスク着用省略の運用を中止するトラブルが発生した場合	○	●全面マスク着用指示後30分以内を自安に通報 ●ダスト、空間線量確認後	○	○	○	C	●通報後30分以内を自安に一斉メール送信 ●直近の定例会見・レクにて説明
			<p>(14) 敷地内において火災が発生したとき。</p>	<p>火災であるかを判断できない場合は、発煙の有無等の発生事象の概要、消防署への通報の有無等の対応内容について連絡する。</p>	<p>火災・発煙・油漏れ</p>	火災・火災報知器作動	トラブル	火災を発見し、119番通報した場合	○	●確認・消防通報後30分以内を自安に通報 ●鎮火後 ●現場の詳細な確認結果 ●消防による鎮火判断後	○	○	●	B
		火災報知器が動作し、誤発煙との判断ができない場合				○	●発生確認後30分以内を自安に通報 ●現場確認後（火災or誤警報判断後）30分を自安に通報	○	○	○		C	●通報後30分以内を自安に一斉メール送信 ●直近の定例会見・レクにて説明	
		火災報知器が動作したが30分以内に誤発煙の確認ができた場合				×	—	—	—	—	—	その他		
		発煙・焦げ跡の確認				トラブル	火災のおそれありとして消防に通報した場合	○	●確認・消防通報後30分以内を自安に通報 ●発煙停止後 ●現場の詳細な確認結果 ●消防による判断後（火災が否か）	○	○	○	C	●通報後30分以内を自安に一斉メール送信 ●直近の定例会見・レクにて説明
		油漏れ/薬液（危険物）漏れ				トラブル	場外（海洋）への漏えいおよび漏えいの可能性がある場合、または使用済燃料プールへ流入した場合	○	●確認・消防通報後30分以内を自安に通報 ●消防による判断後（危険物の漏えい否か）	○	○	◎	A	●通報後30分以内を自安に一斉メール送信 ●夜間・休日を含む準備ができ次第、緊急記者会見を開催 ●緊急記者会見・レク時には、プレス文を用意
		プラント設備から漏えいが確認され地面へ染み込んでいる場合				○	●確認・消防通報後30分以内を自安に通報 ●消防による判断後（危険物の漏えい否か）	○	○	○	○	C	●通報後30分以内を自安に一斉メール送信 ●直近の定例会見・レクにて説明	
		プラント設備から漏えいが確認され境内に留まっている場合				○	●確認・消防通報後30分以内を自安に通報 ●消防による判断後（危険物の漏えい否か）	○	○	○	○	D	●直近の定例会見・レクにて説明	
		庫裏から漏えいが確認された場合	○	●確認・消防通報後30分以内を自安に通報 ●消防による判断後（危険物の漏えい否か）	○	○	○	○	E	●定例会見・レクにて説明				



福島第一原子力発電所 運用時、事故・トラブル等発生時の通報基準・公表方法

2013年9月17日施行  
2015年10月5日更新  
東京電力株式会社

自治体との通報連絡協定		対象設備	トラブル・事故等分類		通報基準				公表方法			
通報連絡要綱	運用上の留意点				要否	タイミング	一斉メール	日報 & 1F 状況	会見説明	公表区分	タイミング	
(17) その他必要と認められる事項	<<当社で想定>>	実施計画違反	-	保安検査、保安調査において実施計画違反（違反1～3）と判断された場合	×	-	-	-	○	B	●定例会見・レクにて説明 ●プレス発表を実施	
				保安検査、保安調査において実施計画違反（監視）と判断された場合	×	-	-	-	○	E	●定例会見・レクにて説明 ●プレス発表を実施	
			新規設備導入、主要設備復旧	作業	炉心、使用済燃料プールの冷却に依る新規設備導入開始時	○	●インサービス後、設備が安定したことを確認後、準備ができた実施	-	○	○	E	●定例会見・レクにて説明 ●日報、1F 状況にも記載
					放射性物質の放出管理に依る新規設備導入開始時	○	●インサービス後、設備が安定したことを確認後、準備ができた実施	-	○	○	E	●定例会見・レクにて説明 ●日報、1F 状況にも記載
					5・6号機の主要設備復旧時	○	●インサービス後、設備が安定したことを確認後、準備ができた実施	-	○	○	E	●定例会見・レクにて説明 ●日報、1F 状況にも記載
		放射性物質の調査依頼	作業	発電所構外で福島第一由来と思われる放射性物質が見つかり、調査を依頼された場合	×	-	-	-	○	E	●定例会見・レクにて説明 ●環境省の除染エリア毎で最初に発見したものを搬入した時と除染エリア毎にとりまとまった時に公表	
		地下水バイパス	設備停止	トラブル	循環ポンプ、揚水ポンプなどのトラブルにより、地下水バイパスの運用を停止する場合	○	●発生確認後30分以内を目安に通報	○	○	○	C	●通報後30分以内を目安に一斉メール送信 ●直近の定例会見・レクにて説明
					サンプリング結果	-	一時貯留タンク水のサンプリング結果が運用目標値を超えた場合	○	-	○	○	C
			排水実績	作業	排水停止	○	●排水作業終了後	-	-	-	その他	
					排水停止	○	●排水作業終了後	-	○	○	E	●定例会見・レクにて説明 ●日報、1F 状況にも記載
					排水停止	○	●排水作業終了後	-	○	○	E	●定例会見・レクにて説明 ●日報、1F 状況にも記載
		サブドレン・地下水ドレン集水設備 / サブドレン他浄化設備・移送設備	設備停止	トラブル	ポンプなどのトラブルや運用内滞留水位よりサブドレン水位が低くなる恐れがある場合等により、系統の運用を停止する場合	○	●発生確認後30分以内を目安に通報	○	○	○	C	●通報後30分以内を目安に一斉メール送信 ●直近の定例会見・レクにて説明
					サンプリング結果	-	一時貯水タンク水のサンプリングの結果、トリチウムが運用目標値を超えた場合及び、定期的な分析で基準を超え排水を停止する場合	○	-	○	○	C
			排水実績	作業	排水停止	○	●排水作業終了後	-	-	-	その他	
					排水停止	○	●排水作業終了後	-	○	○	E	●定例会見・レクにて説明 ●日報、0F 状況にも記載
					排水停止	○	●排水作業終了後	-	○	○	E	●定例会見・レクにて説明 ●日報、0F 状況にも記載
		設備停止	トラブル	ラインの大量漏えい、供給ポンプ停止などのトラブルにより、送別排水壁の運用を停止する場合	○	●発生確認後30分以内を目安に通報	○	○	○	C	●通報後30分以内を目安に一斉メール送信 ●直近の定例会見・レクにて説明	

※「通報基準・公表方法」はあくまでも目安であり、上記以外の事故・トラブルが発生した場合も含め、通報・公表の要否は社会的関心の状況などを踏まえて柔軟に判断します。

※複合的なトラブル・事故が発生した場合は、原則、公表区分の高い方のタイミングで通報・公表します。

※竜巻／落雷／津波等の規模・被害が大きくなる場合は、状況に応じて臨時会見・レクを開催します。

※会見とは本店における記者会見を指し、レクとは福島県政記者会における記者レクを指します。

※本資料における「通報」は、原子力災害対策特別措置法第25条第2項に基づく連絡にて行います。

【更新履歴】

2013年9月17日施行

2014年2月20日更新

2015年5月12日更新

2015年10月5日更新